

## 様式2

### 令和7年度 学校評価の4点セット

1学期

日田市

立

東渓中

学校

4月 4日版

【学校の教育目標】

主体性を發揮し、よりよく生きようとする生徒の育成 ~自律した学習者の育成を目指して~

取組名のタイトルを

募集中 (R7.4.4)

【育成を目指す資質・能力】 言語能力

重点目標	評価	達成指標	チーム	重点的取組	取組指標	実施率	R6年度の成果・課題
【知識及び技術で働く能力】 教科等で必要な語句・表現の習得	<input type="radio"/> 平日「」（自分で決める家庭学習ルール）を守って家庭学習に取り組んだと答えるA評価の生徒を40%以上にする。 <input type="radio"/> 単元テストで正答率80%異教の生徒の割合を30パーセント以上にする。 <input checked="" type="radio"/> 【家庭の取組状況、達成状況については1学期中に検討予定】	<input type="radio"/> ○木下 櫻井 長谷 部 <input type="radio"/> ○「」（自分で決める家庭学習ルール）の実行、習慣化に向けての支援。	学校	<input type="radio"/> ○「」（自分で決める家庭学習ルール）を中心とした家庭学習習慣定着のための支援。	<input type="radio"/> ○生徒は「」（自分で決める家庭学習ルール）を設定し、学期末にふり返りを行う。 <input type="radio"/> ○保護者は学習習慣の定着を図るため、学期に2回「」について話し合う時間を設定し、親子でふり返りを行う。		<input type="radio"/> ○今年度はチームとしての機能は果たせていなかったので、来年度はチーム会議等の時間の設定が必要。
【思考力、未知の状況に対応する力、判断力をもつて、自分の意見を伝え合う力、表現力を育成する】 習得語彙を活用し、自分の意見を伝えることのできる育成を言語化し	<input type="radio"/> 単元テスト、定期テストで「論理的に解答する」問題の平均正答率6割以上の生徒が50%以上 <input type="radio"/> 授業等で「自分の意見を伝えることができた」の完全肯定率60%以上	<input type="radio"/> ○衛藤 津高 浅山	学校	<input type="radio"/> ○各授業において、習得語彙を活用して生徒自身の考えを言語化（文章、口頭）させ、内容を目的、場面、状況に照らして評価する <input type="radio"/> ○短学活や人間関係プログラムを計画的に実施する	<input type="radio"/> ○各教員は、単元ごとに生徒が習得語彙を活用した記述「ふりかえり」を行わせ、相互に伝え合う活動を実施する <input type="radio"/> ○各学級の短学活で「共感を育む」プログラムを実施し、月1回は全校で取り組みを行う		<input type="radio"/> ○今後は、記述問題の正答率の向上が学力検査等での「活用力」に反映できるよう「まとめ」や「振り返り」の方法について研究する必要がある。
【学びを人生や社会に生かす力、人間性等の涵養】 多様な意見や考え方を図る受け止め、力�建設的発信し	<input type="radio"/> 以下の調査内容（行事後・学期スパン）肯定率（4段階評価において3以上）を80%にする  <b>【生徒調査】</b> ①授業を主体的に取り組み充実できていると思うか ②自分の将来に向けて目標をもって学校生活をおくれているか。 ③互いの意見を受け入れよりよく学校生活を送っていると思うか。 ④友だちや集団のために役に立っていると思うか。 <b>【行事ふり返り調査】</b> ①行事の目的を理解し、達成感を得ることができたか。 ②行事を通して次への目標ややる気をもつことができたか。	<input type="radio"/> ○江藤 光田 石松	学校	<input type="radio"/> ○キャリア教育の視点を意識し、生徒指導の3機能を担保しながら「生徒を主体としたきめ細かな授業実践」の推進。 <input type="radio"/> ○教師は、生徒の多様な考えを引き出し主体性や協働性が発揮できるような場を学校生活全体を通して意識する。	<input type="radio"/> ○授業改善の推進 • 生徒が主体的に活躍できる授業を毎時間取り入れる。 (ペア・小集団活動) • 生徒の特性に応じた授業展開の工夫。 (指導の個別化) <input type="radio"/> ○生徒は、行事等に向けて学級・全体で話し合う場を1回以上もち、合意形成のもとに行事に取り組む。行事ごとにふり返り調査を行い、生徒の変容を把握する。		<input type="radio"/> ○今回の調査では2学期末調査と比較して全体的には肯定的回答は向上しているがあまり大きな変化は見られなかつた。 <input type="radio"/> ○否定的な回答をする生徒もあまり変わっていない。「自分に自信がもてないのか」、「自己肯定感が低いのか」、「その他の要因：家庭生活・睡眠時間等」などあげられる。今後は、個の特性をどう生かすかや気になる生徒をどう引き込んでいくかなどきめ細かな指導体制、生徒指導の3機能を生かしながら更なる授業の工夫が必要だと考える。
			家庭	<input type="radio"/> ○コミュニケーション活動の積極的な推進	<input type="radio"/> ○学期に1回コミュニケーションの状況を把握する		
			地域	<input type="radio"/> ○学校運営協議会を中心とした地域連携の推進	<input type="radio"/> ○地域は、学期に1回以上授業参観（行事含む）を積極的に行い授業評価をする <input type="radio"/> ○運営協議会は年1回以上生徒が表現活動できる場を提供する		<input type="radio"/> ○調査の時期によって数値の変化が見られると思うが、全体的には今後も継続して学校の諸活動、教科・領域全般を通して自己有用感が持てるような取組が必要である。